

質問者



三好悦男 議員

Q

魅力あるまちづくりの推進を

A

立地を最大限に生かしたまちづくり

問

東レでは、将来有望な炭素繊維の増設工場が生産を開始し、また、長年の念願であった大型商業施設も先日起工式が行われ着工の運びとなり、大いに期待するところですが、今の心情と今後の取り組みは。

答

白石町長

東レ(株)愛媛工場では去年の4月から総額250億円を投じて炭素繊維「トレカ」の生産増設工事を行い、今年一月から稼働し大型商業施設につきましても(株)フジが起工式を行い、いよいよ動き出したというのが実感です。計画的な土地利用のもとに時期を一つにして動き出したことは、住宅の利便性の向上、雇用の促進、あるいは税収の増といった面でも当町の活性化につながるものと大いに期待しています。

問

役場の改革について

昭和60年に制定された松前町町民憲章の理念を心の支えとして徹底的に意識改革を図り、知恵を出し汗をかき、町民の範とならなければいけないが考えは。

答

町民の気持ちになつて仕事をしよう指導

白石町長

職員には日頃より、町民の目線で町民の気持ち



東レ西地区工場

問

北伊予校区の活性化について

本年三月末、町の校区別人口は、松前校区14,149人、岡田校区9,656人、北伊予校区7,619人、合計31,424名です。高齢化率では、松前校区20・1%、岡田校区23・8%、北伊予校区26・5%となっています。北伊予校区が一番高齢化が進んでいます。JR車両貨物基地の移転が

答

計画地は、農地の転用・開発に厳しい規制がある

栗田副町長

北伊予校区の活性化、若者定住の住宅団地については、車両貨物基地が計画されている周辺は、農振法に基づく甲種農地になっており開発に厳しい規制がかかっています。今後周辺状況の変化を見ながら、可能性について探っていきます。

問

小・中一貫教育の実施について

少年期の教育は重要であり、当町は小・中学校3校ずつあり一貫性があります。9年間を見通した連続性ある教育を実施してはどうか。

答

課題が多く取り組む段階ではない

永見教育長

当町では、小・中学校ごとに児童、生徒それぞれが課題を見つけ、考え、問題を解決していく資質、能力を幅広く教育、確かな学力の向上、自主性、自立性の確立に努め、創意工夫を凝らした特色ある学校づくりに取り組んでいます。小・中一貫教育については、多くの課題があり、すぐに取り組む段階ではありません。